

No. 185
1992. 4/25

非暴力直接行動

戦争抵抗者インターナショナル(WRI)大山市鶴飼町666水田ふう・向井孝

死刑とカクテルの及ぼす関係

「私の死刑廃止考」

1 向題発言

水田ふう

一月末、四国・松山での「死刑廃止・連続シンポジウム」カー一回によばれて、向井武子さんのお供として行った。

わたしには武子さんの前座に、「向題提起」をしてほしいという注文。「エー向題提起？」と大いになやんだあげく、「このころ死刑廃止が多少世論的にひろがってきてる風潮のなかで、ときどき、うっ？と、なにが引きとめられるような感じのことを、キ、チリ整理がてきぬまにしゃべってしました。

というわけで、わたしはどうか「提起」どころでない「向題発言」をついついしてし



特集 ★ 私の死刑廃止考・向題発言の意味。

新聞に連載された小説のカットを、辻ままとくが描いていて、それを使いました。

人に出会って、はじめのうちは信じられん気がしてただムシだった。

ところが、よくよく聞いてみると、世間の人はまあ一応おいていても、なんと死刑廃止関西連絡センターを一つもつくった人たちもセフトの人が多かったし、わたしみたいは死刑廃止であるでござる。つまり、いろいろむざむざして理論をいっているのにその人たちの死刑廃止論は、いま行われている死刑制度には断半反対やけど、もし人民が権力をにぎったとせばその「カクメイ」を守るために「人民の政府」のもとでの死刑はやはり必要やという。これにはもうびくくり目玉むいてしまった。

それやったら「死刑制度廃止」とちがうせんか。そんな「カクメイ」というのは一体ナンなんや。そこで気付いたんは、わたしは何となく思ひこんでいる「カクメイ」は、その人たちはまあで正反対のもんやむでいうことやった。

それから「死刑廃止」をモノサシにして考えると、「政府と人民」の関係が一ぱんにすっきりとみえてくる。「人民の政府」なんていう言い方は死刑ということで考えたら



まるでサギ・ペンのもんやていうことが判るんや。なんかややというても、わたしらはいつても政府に「死刑にされる例」の人民であって、政府はどんなときも人民を法律でしばり、刑罰でこらしめ、わたしを死刑にする例のものとしての立場でわたしを統治する以外のもんでないというんや。

3 カクメイ

まあそうなるで、これはエライことや。「死刑廃止」ということは、そういう国家の在り方、政府の魂胆に反対なんやから、死刑に反対というのでは、どこのつまり終身刑にも無期にも反対ということにならぬし、そもそも監獄が要するやうな社会がおかしいんやというんや。

社会がおかしいことなるで、政府にだけ文句をいうてだけではすまへん。世の中のいろいろなんやと、どつともオカシイこれはアカン、向題やというんやとこの一つ一つの解決というか解消というか、つまりは世のなかの仕組みをひっくりかえすことで死刑廃止はつながら、てるというんや。

その意味で死刑廃止を言うことは、人民にとっての「ホ
ンマのカクメイ」を、真識するかせんかにかかわらぬ
主張する」というへこにぬれへんか。

「カクメイ」やなんて、改めて言うてしまつと、もう
まるでわたしには、たく手におえへんことやけど、考え
てみたらそもそも死刑廃止にせよカクメイにせよ、どっち
にしてもわたしひとりだけでできるもんやないこ
とははじめからわかつてることや。つまり、
みんながたまたま自分がぶつかった反原発と
か、差別問題とか、自衛隊海外派遣阻止と
かにとり組んでそれぞれやつてるシングル・
イッシュューとしてのそのことが根、子でつな
がつてること、総体としてそれが表にあら
われてくるとき、世の中の仕組みをひっくり
かえすということになるんところがやろかー
…やろか、なんてあまいまいことやなしに、わたしはそ
れを今まで楽天的に何となく信じてることで、それこそエエ
かげんやけど、でもかくわたしは、わたしの持ち場として
「死刑廃止」を言うてきたし、その他のことにも首をう
こんできたのやつた。



というわけで「カクメイ」「カクメイ」というてたんだ
ちの「死刑廃止」は、あまり信用せえへんかわりに、この
ごろ「カクメイ」いうことを完全に見棄ててもたような
「死刑廃止」が平気で云われたりすると、何かついでムズム
ズツとして、このあたりのわたしのひとりよがりというか思
い込みが、ついつい「松山」で出てしまつたということや
たんや。

しかし…ところが…

4 状況

ところが、いまやこんなわたしの単純な「
死刑廃止運動論」では、は、キリナせるこ
とができないような、たとえば原発をどん
ん推進しながら、一方であ、さり死刑を廃止
した国家がこの地球上にいくつも出てきたというわけや。
三月七日、死刑廃止フォーラム90-IIが東京でひらがれ
このためにわざわざフランスからバダンテールさんが来日
した。バダンテールさんは、フランス政府が死刑廃止に踏
み切つたとき、の法務大臣で、いまは新しい法律を立法する
時、それが憲法に合っているかどうかを審理する機関の議

▼ 3月22日の「反日世間」の報告も書いちゃうつもりが頁がなくなりました。支接連ニュース119号を読んで下さい。

5 ~ 12頁 欠

り心にたゞみこむことだ。▼ そのためにみんなのうちに準備しておくことは？ ▼ そのときの心持持物は？
 ▼ 服装は？ ▼ 連絡先・連絡方法は？ ▼ 天候・風向き・霧の日雪の日・それぞれの逃げ方は？ 14頁へ↓

づく。10月11日・東京地域に重要参考人として出頭し陳述証言。社会主義者でないという弁明書提出。不起訴となる。

⑧ 一九一八年へ大ワシ39才。秀天はじめての著書「現代新訳碧巖録詳解」を大鏡園から上梓。これは「ホラと術気と無智とでねりかためた禅僧や居士連中に呪文扱いされてきた碧巖録を、理智の上に立って改めて見直そうとする人々が容易に理解できるように解説したもので、秀天はこれにより、一躍、在野の研究者・気鋭の禅・仏教界の論客として知られるようになり、教版を重ねるベストセラーになった。とくに彼を有名にしたのは鈴木大拙との論争で、通俗「禅」へのきびしい批判だ、

⑨ この間、警視庁の介入により、て屋住する家なく、転々として借家さがしに

苦しみ、ようやく知己東和汽船社長上西氏の庇護によって落付くと共に英国領事館に就職。(通訳でなく領事館秘書として一室を与えられ仏典の研究家英国大使エリオットに仏書漢籍を英訳して提供、大使帰任後も大英博物館に送るという仕事だった)大平洋戦争南戦まで20数回回勤務。

⑩ 一九四一(昭和16)12月大平洋戦争南戦と同時に憲兵隊にスパイ活動容疑で拘引され、半年後に釈放される。そのごスイス・バーゼル薬品に籍をおくかたわら、発表のあてがない著作につとめていたが、一九四五(昭和20)3月17日の神戸大空襲で、兵庫区夢野の自宅に被弾、その破片が腹部貫通して死去した。6才。

⑪ その著書すべてでは3点・山鹿泰



治が入牛したのは一九二八(昭和3)文哲社書房刊「漢英考証老子の新研究」で、また山鹿が京都にいたのは、一九三〇(昭和5)9月から翌4月までの間だから、そのころ入牛し神戸の秀天宅訪問もまたその頃と思われる。

⑫ 秀天は、あの明治末年の「大逆事件」に自分が関係したということをも、まるで記憶が欠落したように、生埋誰にも語るこゝろがなかった。それゆえ末七人もそれを知らず、全く知らされなかつたこと「聞き取り」にも記録されている。

つとすればもちろん、「老子」を介してのほんの一瞬のすれちがいともいえる山鹿泰治との、思えば運命的な出会いを出会おうとすることなく、一体どんな会話が交されたのだろうか。

それにして秀夫が、要観察人としての
 永年の監視と不自由に耐え、ただひ
 たすら「禪の研究」のみに没頭しつづ
 々の生涯をついに非業の死でおわらね
 ばならなかつたその時代を、いま私ら
 はどう考え受けとめればよいのだろうか。

ハハの死

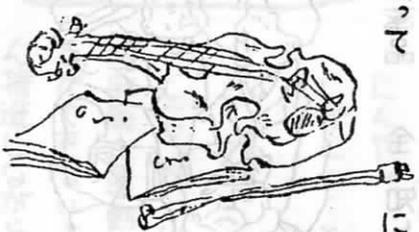
— 2月12日 —

● 金鐘伯(鍾珪)さんが死んだ。2
 月12日午前九時15分。金さんを知
 たのは「千人集会」の翌日。大融寺で
 の座談懇親会で、「大道寺さんたち東
 マリア反日武装戦線のような日本人が
 いたからホクは今日まで生きてきた」
 という発言が強く心に残ったからや
 だ。六回ほどそのことだ。

● 去回の正月二日のおひるまえ。ふ
 う子さんと「コタツに足をつつ、こんでい
 るぞ。玄關で声がした。「大阪にいた

ときもそうたびたび出會つてたわけ
 もないが、大山にきてからは尚更で
 もうながいこと音信が絶えてたよう
 な感じの—思いがけない金さんが
 はにかむような笑顔でとっせん立っ
 ていた。

早朝、車で京都の自宅をたつて
 関ヶ原あたりで雪で、すこし
 ふくれ、犬山へ着いてから
 ぐるぐる二時間もまわつて
 家をかがして見つからず、
 もう城見物でもして帰ろう
 と思つて、最後に歩いてた
 らや、と、という話だ。



ところが、つきりその日は治る
 もんと、のんびりしてたら、もう三
 時すぎに「じゃあどうも、夜になっ
 てしまつと帰りにくいんで…」と、
 引きとめるまもなほほど、あつたり
 立上つて帰つてい、てしまつたんや

た。そのときどんな話を交したんか
 まるです、かり忘れてしもたけど、い
 ったいなんてこんな遠方の大山みだい
 などこまで、正月早々訪ねてきてくれ
 たんか、それもたつ所番地だけをアテ

に、実のところ鶴岡町六六とい
 うのはぼくがむかし勝手につけ
 た番地。ほんまにしやにむに
 というか、よう見つけ出してく
 れた。そんなにまでして、と
 もかくなんでかしらんけど、
 ぼくのところをえらんでわざわ
 ず正月やのに訪ねてきてくれた

んやというこだけで、もうぼくは胸
 一ぱいという気がして、アツケなく帰
 てもしたこともよけい心にのこつて、
 金さんはぼくに、て、忘れられん人にな
 づつてしまつた。

● 13日京都北白川ハブテスト教会の

↓ 3頁あり ▼ その次にヤニ草をよむ。大事事故が起つたとき、市や町がやるのは正しく混乱防止の名目で、道路を遮断し
 逃げようとする住民を閉じこめる「ゲ」っていうことがわかる。 ▼ とすれどその時いくら騒いでる間に合わない。

▼とすれば、いまノンビリユツクリしてゐるのだから、いまのうちにこそ大サワギ。自體はどんな安全対策を立てるかの、他、きき札してもエエとちがうやうか。▼ともかくともかくこのパンフまず読んでみることに。取次(向井)

告別式にいった。

金くんが「ぼくがどんな小さな集りでも出かけていくのは自分を必要としていることばかりに献身すること生きたいからや」という意味のことを云つたときいて、ぼくらの小さい集りに律氣に輝出してくれたこと、それから去年のお正月のことを思い出したのだ。

4月6日

▼4月6日、柳井秀君の訃報が、どうどう来た。3月12日入院検査をつけたら肺癌で、数日後には脳へ進行して昏睡状態になった。15日高島洋君が訪ねたときは、ふと眠りからさめて、「一号に出した詩を向井くんにつけてんばんにやらせよ」との暇をいふて言ひました。昨日の夕方に向井前のことを話した



いう。

ぼくが訪ねた23日は、気持ちよそろにかるいイビキをたてて眠り続けた。帰りがけ「おーい柳井くん」と呼んだが何の反応もないのがフシギで、医者のおとこ、三日の余命という話が信じられなかった。

40年まえ、下田誠一君が死んだとき、松蟬や、九日、ひとの死を知らずという句を作った。が、

こんどは、柳井君の死を自分の予定表に既定事実として書き込んで、その訃報を待ちながら、何となく平気で暮すという、

どう言えはよいが、奇妙な感覚の日常が15日間続いたのだ。

▼詩読イオムをめぐってたら「風景い」という詩が眼にとまった。

男の子が路はたにころがっていた、近づくとおまの餅みだいに手にまみ

れていたノ通行人は、一寸立どまって、たゆまざぎたノ聲がきて背巾をけると寝返ったノもう一度けることば、眼をあげたノうすい頭の毛がしろうく汚れてノ手で足だけが妙に細かった(イオムから集、一九四七年七月)

当時まだ焼跡がのこる姫路駅前路上でよく見かけた宮澤実論の浮浪児たちの風景だった。

お城マートの南市。堺町の花鳥庵。衛さんと「新湧」。駅前につくった「カッスル」喫茶。阿部(知三)さん。駅裏のマンカリ部落とオンバー... それらの一々余り向す、かりたれていた一ぼくらが共に彷徨した。「青春無頼」の日々を全部かきあつめて、ぼくの中から持ち去るよつに、4月6日、やはり彼は予定通りに先立っていったのだ。

